

## 新編集長挨拶



総合診療部教授  
三ツ浪 健一

「滋賀医大ニュース」は平成12年1月に創刊され、滋賀医科大学がどのような大学を目指し、どのような活動を行っているのかを、一般の方々に広く知っていただく目的で、年2回刊行されてまいりました。お陰様で大変好評を博し、その創刊号は平成12年度国立大学等優秀広報誌表彰奨励賞を受賞しました。これは初代編集長の故 北嶋和智耳鼻咽喉科学講座教授の御尽力とセンスの良さによるところが大でありました。先生の病気御療養中に「滋賀医大ニュース」の編集を引き継ぐよう命を受けましたが、あまりにも早く他界されたため、先生の今後の構想などをお伺いできなかったのが、本当に残念です。

国立大学の独立行政法人化や統合再編が予定される中で、現在、滋賀医科大学も大変な激動期を迎えています。変革は大変ですが、新しく大きく発展できるチャ

ンスでもあります。地域に支えられ世界へ発展しようとする滋賀医科大学にとって、このような時こそ、地域の方々への広報誌である「滋賀医大ニュース」がその真価を発揮し、地域の方々と大学が共に力強く歩めるよう大いに貢献することが期待されていると思います。

今回より巻末に挟み込んだアンケート用はがきを料金受取人払いとし、読者の郵送料負担をなくして、たくさんの皆様からの貴重な御意見をいただきやすいようにしました。皆様からの忌憚のない御意見を賜り、これまで以上に皆様のお役に立てる広報誌に育てたいとお願いいたしておりますので、宜しく御協力の程お願い申し上げます。

創刊以来、本誌編集長として尽力された北嶋和智耳鼻咽喉科学講座教授が、平成13年10月8日午前7時25分に逝去されました。12月22日には本学において、北嶋教授をしのぶ追悼式が行われました。謹んで御冥福をお祈りいたします。

## 草津市立松原中学校への出前授業



かねてから学長の強い要請により、本学から大津市及び草津市の教育委員会に呼びかけ、中学生に広く医療や看護について関心を持ってもらい、併せて地域貢献等を目的とした出前授業が、平成13年12月7日（金）草津市立松原中学校において実施され、保健管理センター村下講師が「痴呆について学ぼう」と題する授業を行った。

健康・痴呆をテーマに自主研究を行う約50名の生徒が参加、授業はパソコンのパワーポイントにより進められた。また、授業内容は1つひとつのテーマについて生徒との対話形式で進められ、質問等を投げかけて生徒に回答させたり、実際に使用されている薬の



見本や、脳の断面写真・脳の模型をまじえて緊張感の中にも、なごやかなムードで進行していき、途中には患者さんに実際に行っている知能評価スケールを担当の先生に体験してもらったりしながら、予定を10分程度延長して終了した。授業が終わってからも、熱心に模型を手にとって見入る生徒がたくさん押しかけていた。当日は、学校からの呼びかけにより年配の方数名も参加され、熱心に講師の話に耳を傾けていた。

また、1月には大津市立瀬田中学校でも出前授業を行っており、今後は実施結果を踏まえ、教育委員会とも連携をとりながら、さらに拡大を図ることとしている。